



人気投票で男性部門1位(左)と女性部門1位(右)となった浮世絵

攻の人が多いかと思っていたのだが、日本史学専攻が2名、心理学専攻が2名、総合政策学部1名、文学研究科の大学院生が1名、そして国文学専攻は4名だった。専攻も学年もバラバラで、7月に行われた事前ガイダンスのときには、新しいことを始めるワクワク感よりも不安な気持ちの方が勝っていた。



文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。

気軽な気持ちで足を踏み入れた 浮世絵の世界

「実践的浮世絵学」。このなんとも堅い雰囲気を持った講座に応募したのは、2年次の梅雨のころだった。学芸員をめざしているわけでもなく、特別浮世絵に詳しいわけでもない。志望動機は、ただただ「楽しそうだから」。エントリーシートにはほかのものと同じらしい志望理由を書いたが、やはり一番は「楽しそうだから」だった。

受講生は国文学専

学生主体で企画から手掛けた 浮世絵の展覧会

「実践的浮世絵学」は9月から始まり、浮世絵の歴史や浮世絵版画の制作工程、版型など、浮世絵の基礎を講義形式で学んだ。そして、作品の取り扱方や調書(作品の大きさや刊行年、版元などを書くもの)の取り方を学習したうえで、10月中旬には公益財団法人平木浮世絵財団から約40点の浮世絵をお借りして、調書を取った。

本物の浮世絵を扱うときには細心の注意を払わなければならない。なぜなら、それが150年近く誰かの手で守られてきた美術品であり、後世にもそのまま残さねばならないものだからだ。清潔な手で、マスクをつけて、2人1組で慎重に作業を進めた。

その後、「浮世絵に登場する美男美女の人気投票を行う」という展覧会のテーマが決まり、浮世絵は22点に絞られた。一つひとつ大きさが異なる浮世絵に合うよう、マット紙(ガラスと絵の間に入れる紙)を切って額装し、ポスターを作成し、会場をレイアウトするなど、準備作業は多岐にわたった。それらは学芸員課程でもできないような大変貴重な体験であった。また、そ

主催する側に挑戦 学生による浮世絵展覧会

えのもと ふみ
榎本 芙巳

文学部人文社会学科国文学専攻3年
私立中央大学附属高校(東京都)出身



ヒルトップにて

れら多くの作業を進めるなかで、少しずつ初めの不安な気持ちは薄れていった。そして、後期試験が終わった1月下旬。いよいよ会場設営の日となった。注文した布が届かないなどのアクシデントもあつたが、色模造紙で代用してパネルを飾り、およそ5時間をかけて無事に会場設営は完了した。

こうして開催にこぎつけた「浮世絵美男美女競（ミス・ミスターコンテスト）展」は、受講生が選んだ22点の浮世絵のなかから、お客さまの投票によつて人気ナンバーワンを決めるという参加型展覧会である。受講生は1人2点の浮世絵を担当し、キャッチコピーを考え、キャプションを書く。来



担当する浮世絵を選ぶ様子

場者アンケートでは「キャッチコピーがよかつた」「投票できるのは面白い」など、学生らしい視点や表現が親しみやすいと好評であつた。

しかし、一方で「会場がわかりにくい」「開催期間が短い」など、さまざまな指摘もいただいた。また、受講生のなかでも「宣伝が不十分だった」「会場が静かに入りにくかつたのでは」などの反省点が多数あがつた。私自身、作業についていくのに精一杯で、やり残してしまつたことも多々ある。それを踏まえ、浮世絵や江戸の文化に関する知識を深めていき、2017年度の実践的浮世絵学にも応募したいと考えている。



調書を取る様子

深くは知らない浮世絵のこと

文学部事務室
矢口 勇哉やぐち いさや



◎ 本人なら誰もが一度は目にしたことがあるであろう浮世絵。ただ、見たことはあるけれど、どのようなものを説明するのは意外と難しいのではないのでしょうか。そんな浮世絵を実践的な演習形式で学ぶことができるプログラムのご紹介です。

中央大学では質の高い教育プログラムの開発をめざし、いくつかの取り組みに対して「教育力向上特別予算」を措置して支援しています。文学部からは2つのプログラムが採択され、その1つが「浮世絵展示を活用したアクティブラーニング」です。本プログラムのなかで課外授業として行われる「実践的浮世絵学」では、浮世絵を所蔵する美術館から専門の学芸員を講師としてお招きし、基本的な知識の修得から始まり、学生が決めたテーマ・構成による浮世絵展示会を実現するまでの道のりを学び

ます。2016年度は、「浮世絵美男美女競」と題し、江戸期と明治期に描かれた美男美女をコンテスト形式で展示しました。学生が自ら作成した説明文や、受付の学生から教わる浮世絵の知識は、今まで何気なく見ていた浮世絵について、知らなかつたことばかりでした。

今年度も、新たな受講生とともに一から展示会をつくり上げていきます。古きよき日本に触れたいなら（直接作品に触れるのはNGですが…）、ぜひ多摩キャンパスにお越しください。展示会の時期や本プログラムの取り組みについては、随時Webサイトでご紹介する予定ですので、パソコンや携帯電話、スマートフォンブックマークにご登録いただければと存じます。

<http://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/letters/characteristic/subject01/>
「実践的浮世絵学」のページが表示されます。

